



Yomeishu



平成27年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成26年10月29日

上場会社名 養命酒製造株式会社 上場取引所 東名
 コード番号 2540 URL <http://www.yomeishu.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 塩澤 太朗
 問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役管理本部長 (氏名) 田中 英雄 (TEL) 03-3462-8138
 四半期報告書提出予定日 平成26年10月31日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年3月期第2四半期の業績 (平成26年4月1日～平成26年9月30日)

(1) 経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第2四半期	6,109	△0.2	848	△10.0	1,001	△7.8	843	550.1
26年3月期第2四半期	6,122	7.1	942	9.6	1,085	9.2	129	△80.1

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年3月期第2四半期	30.77	—
26年3月期第2四半期	4.32	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
27年3月期第2四半期	38,222	33,428	87.5
26年3月期	37,058	32,431	87.5

(参考) 自己資本 27年3月期第2四半期 33,428百万円 26年3月期 32,431百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年3月期	—	—	—	18.00	18.00
27年3月期	—	—	—	—	—
27年3月期(予想)	—	—	—	18.00	18.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成27年3月期の業績予想 (平成26年4月1日～平成27年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	13,490	4.0	2,250	2.1	2,480	1.3	1,690	2.4	61.67

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料の4ページ「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(3) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
② 期末自己株式数
③ 期中平均株式数(四半期累計)

27年3月期2Q	33,000,000株	26年3月期	33,000,000株
27年3月期2Q	5,597,312株	26年3月期	5,596,481株
27年3月期2Q	27,403,344株	26年3月期2Q	30,041,402株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	4
4. 四半期財務諸表	5
(1) 四半期貸借対照表	5
(2) 四半期損益計算書	7
第2四半期累計期間	7
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間(平成26年4月1日から平成26年9月30日まで)におけるわが国経済は、政府の経済政策や金融政策により緩やかな景気の回復基調が続いているものの、個人消費については消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動が長引くなど、引き続き先行き不透明な状況で推移いたしました。

当社の関連業界におきましても、生活防衛意識や節約志向、業種業態を越えた企業間競争の激化が続き、厳しい状況で推移いたしました。

このような状況の中で当社は、「生活者の信頼に応え、豊かな健康生活に貢献する」という経営理念の下、「持続的成長に向けた事業構造の変革」を基本方針とする中期経営計画の最終年度として、「養命酒」の効率的かつ効果的な販売促進活動により、「養命酒関連事業による安定的収益基盤の構築」に努めるとともに、この収益基盤に基づき、新商品の販売に注力するなど、「新規事業領域の拡大と成長性の確保」の各施策に取り組んでまいりました。

当第2四半期累計期間の業績は、売上高につきましては、「養命酒」の売上が消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動により4月から5月にかけて影響を受けたものの6月以降は前年を上回る基調で推移したことに加え、新商品等の売上も寄与したことによりほぼ前年同四半期並みとなり、6,109百万円(前年同四半期比0.2%減)となりました。利益面につきましては、新商品上市に伴う販売費及び一般管理費の増加や「養命酒」の売上の減少により営業利益は848百万円(前年同四半期比10.0%減)、経常利益は1,001百万円(前年同四半期比7.8%減)となりました。四半期純利益につきましては、社有地売却に伴う固定資産売却益260百万円を特別利益に計上したこと、前年同四半期には減損損失を計上していたことにより、843百万円(前年同四半期比550.1%増)となりました。

セグメント別には以下のとおりです。なお、当社は、第1四半期会計期間より、セグメント情報の区分を「養命酒関連事業」及び「施設運営事業」から「養命酒関連事業」の単一の報告セグメントに変更しており、前年同四半期比較については、前年同四半期の数値を変更後の区分に組替えた数値で比較しております。

①養命酒関連事業

養命酒関連事業の売上高は5,977百万円(前年同四半期比1.2%減)となりました。

<養命酒>

国内における「養命酒」につきましては、安定的な販売を堅持することを目的に、新規顧客の獲得と継続的な飲用に繋げるための効率的な販売促進活動に努めました。「女は7の倍数、男は8の倍数」の節目年齢における養生や「胃腸不調」、「肉体疲労」などの症状を訴求するとともに、提供番組へのテレビ広告、テレビスポット広告やウェブキャンペーン、交通広告、ラジオ広告、雑誌とのタイアップ広告等を実施し、併せて店頭における販売促進活動を展開しました。売上はテレビスポット広告の効果的な実施などにより6月以降は毎月前年を上回って推移したものの、4月から5月にかけて消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動による影響を受け、国内における「養命酒」の売上高は5,180百万円(前年同四半期比3.8%減)となりました。

海外における「養命酒」につきましては、東南アジア諸国を中心として「養命酒」の理解と知名度の向上を目的に市場調査や現地代理店を通じた市場環境に即したマーケティング活動に取り組み、店頭での大量陳列による露出向上と試飲会の実施など店頭販売促進活動に努め、海外における「養命酒」の売上高は前年同四半期を上回る状況で推移し、224百万円(前年同四半期比22.8%増)となりました。

以上の結果、「養命酒」全体の売上高は5,405百万円(前年同四半期比3.0%減)となりました。

<その他商品・サービス>

「ハーブのお酒」につきましては、「ハーブの恵み」の売上は前年同四半期を下回ったものの、「フルーツとハーブのお酒」は、本年4月よりラインナップを強化し、夏期においては季節性の高い「フルーツとハーブのお酒スパークリング」の販売促進に注力するとともに、セット品販売や夏をテーマとした企画、プレゼントキャンペーンの企画提案など小売店と連携した店頭販売促進活動を実施したことにより、前年同四半期を上回る状況で推移し、「ハーブのお酒」の売上高は160百万円(前年同四半期比8.7%増)となりました。

「食べる前のうるる酢」につきましては、テレビスポット広告による認知度の向上を図るとともに、ウェブ広告、通信販売におけるキャンペーンを実施しました。また、本年3月に関東1都6県のスーパーマーケットで発売した「食べる前のうるる酢ビューティー」につきましては、特に店頭での試飲会に注力するとともに、引き続き新規取扱店の獲得に努めました。「食べる前のうるる酢」の売上高は「食べる前のうるる酢ビューティー」の売上が寄与し93百万円(前年同四半期比151.3%増)となりました。

「くらすわ」につきましては、レストランは前年同四半期を下回る状況で推移しましたが、販売分析に基づいた

商品の入替や利益率の高いオリジナル商品の開発・投入、販路の拡大などに取り組んだことにより、「くらすわ」の売上高は231百万円（前年同四半期比12.5%増）となりました。

以上の結果、「ハーブのお酒」、「食べる前のうるる酢」、「くらすわ」にその他の商品・サービスを加え、「その他商品・サービス」全体の売上高は572百万円（前年同四半期比18.9%増）となりました。

②その他

不動産賃貸と昨年7月に稼働した鶴ヶ島太陽光発電所の売上を合算し、売上高は132百万円（前年同四半期比87.1%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期会計期間末における総資産は、前事業年度末に比べ1,163百万円増加し、38,222百万円となりました。これは主に売掛金が238百万円、投資有価証券及び関係会社株式に含まれる保有株式が時価評価の増加等により554百万円、退職給付に関する会計基準等の改正等により投資その他の資産のその他に含まれる前払年金費用が424百万円それぞれ増加したことによるものであります。

負債は、前事業年度末に比べ166百万円増加し、4,793百万円となりました。これは主に未払法人税等が130百万円減少した一方で、固定負債のその他に含まれる繰延税金負債が327百万円増加したことによるものであります。

純資産は、前事業年度末に比べ997百万円増加し、33,428百万円となりました。これは主に退職給付に関する会計基準等の改正による期首の繰越利益剰余金256百万円の計上、四半期純利益843百万円の計上と配当金493百万円の支払により利益剰余金が606百万円、その他有価証券評価差額金が391百万円それぞれ増加したことによるものであります。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前事業年度末に比べ536百万円増加し、2,862百万円となりました。

営業活動の結果増加した資金は、468百万円（前年同四半期比14.2%減）となりました。これは主に税引前四半期純利益1,260百万円、減価償却費232百万円等の増加要因と、有形固定資産の売却益260百万円、売上債権の増加額238百万円、法人税等の支払額491百万円等の減少要因によるものであります。

投資活動の結果増加した資金は、560百万円（前年同四半期は885百万円の減少）となりました。これは主に定期預金の純減による収入500百万円、有形固定資産の売却による収入274百万円、有形固定資産の取得による支出209百万円によるものであります。

財務活動の結果減少した資金は、492百万円（前年同四半期比8.7%減）となりました。これは主に配当金の支払いによるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成26年7月29日発表の通期の業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計方針の変更)

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。)を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて第1四半期会計期間より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法を期間定額基準から給付算定式基準へ変更しました。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従って、当第2四半期累計期間の期首において、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を利益剰余金に加減しております。

この結果、当第2四半期累計期間の期首の前払年金費用が395,121千円、利益剰余金が256,434千円それぞれ増加しております。なお、当第2四半期累計期間の営業利益、経常利益及び税引前四半期純利益に与える影響は軽微であります。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

4. 四半期財務諸表
 (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成26年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,639,381	2,475,826
売掛金	2,562,436	2,801,059
有価証券	3,102,513	4,100,100
商品及び製品	379,278	341,915
仕掛品	161,482	186,139
原材料及び貯蔵品	487,122	452,783
その他	209,376	269,929
流動資産合計	9,541,590	10,627,753
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	3,178,880	3,075,706
その他(純額)	3,264,142	3,244,648
有形固定資産合計	6,443,023	6,320,355
無形固定資産		
	26,883	25,099
投資その他の資産		
投資有価証券	14,412,223	14,398,120
長期預金	4,100,000	4,100,000
その他	2,539,865	2,756,099
貸倒引当金	△5,058	△5,000
投資その他の資産合計	21,047,030	21,249,220
固定資産合計	27,516,937	27,594,674
資産合計	37,058,528	38,222,428
負債の部		
流動負債		
買掛金	262,448	297,044
未払法人税等	473,052	342,763
賞与引当金	244,102	220,267
その他	1,508,340	1,410,914
流動負債合計	2,487,944	2,270,989
固定負債		
役員退職慰労引当金	48,350	48,350
その他	2,090,984	2,474,533
固定負債合計	2,139,334	2,522,883
負債合計	4,627,278	4,793,872

(単位：千円)

	前事業年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成26年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,650,000	1,650,000
資本剰余金	676,680	676,680
利益剰余金	32,755,411	33,361,678
自己株式	△5,014,677	△5,015,454
株主資本合計	30,067,413	30,672,904
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	2,363,835	2,755,651
評価・換算差額等合計	2,363,835	2,755,651
純資産合計	32,431,249	33,428,555
負債純資産合計	37,058,528	38,222,428

(2) 四半期損益計算書

第2四半期累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
売上高	6,122,133	6,109,963
売上原価	1,971,413	1,994,561
売上総利益	4,150,720	4,115,402
販売費及び一般管理費	3,208,092	3,266,693
営業利益	942,628	848,708
営業外収益		
受取利息	21,178	17,112
受取配当金	118,220	128,763
その他	11,001	14,910
営業外収益合計	150,401	160,786
営業外費用		
支払利息	7,045	7,757
その他	102	335
営業外費用合計	7,147	8,093
経常利益	1,085,882	1,001,401
特別利益		
固定資産売却益	1,500	260,428
投資有価証券売却益	680	—
特別利益合計	2,180	260,428
特別損失		
固定資産除却損	6,668	1,685
減損損失	628,606	—
特別損失合計	635,274	1,685
税引前四半期純利益	452,787	1,260,144
法人税、住民税及び事業税	296,000	362,000
法人税等調整額	27,093	55,047
法人税等合計	323,093	417,047
四半期純利益	129,694	843,097

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

	(単位：千円)	
	前第2四半期累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	452,787	1,260,144
減価償却費	244,404	232,943
減損損失	628,606	—
賞与引当金の増減額(△は減少)	△15,161	△23,835
受取利息及び受取配当金	△139,399	△145,876
支払利息	7,045	7,757
有形固定資産売却損益(△は益)	△1,500	△260,428
有形固定資産除却損	6,668	1,685
投資有価証券売却損益(△は益)	△680	—
売上債権の増減額(△は増加)	△317,626	△238,622
たな卸資産の増減額(△は増加)	27,444	47,044
仕入債務の増減額(△は減少)	△53,583	34,595
未払費用の増減額(△は減少)	64,840	△57,381
未払消費税等の増減額(△は減少)	△31,910	103,856
その他	△82,570	△142,446
小計	789,366	819,438
利息及び配当金の受取額	146,648	151,839
利息の支払額	△12,780	△12,053
法人税等の支払額	△377,595	△491,027
営業活動によるキャッシュ・フロー	545,639	468,197
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△1,500,000	△1,001,500
定期預金の払戻による収入	1,700,000	1,501,500
有価証券の償還による収入	500,000	1,000,000
有形固定資産の取得による支出	△490,655	△209,714
有形固定資産の売却による収入	2,199	274,996
無形固定資産の取得による支出	△9,672	△3,140
投資有価証券の取得による支出	△1,101,085	△1,001,889
投資有価証券の売却による収入	13,445	—
その他	350	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	△885,418	560,250
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	1,050,000	1,050,000
短期借入金の返済による支出	△1,050,000	△1,050,000
自己株式の取得による支出	△986	△777
配当金の支払額	△538,122	△491,226
財務活動によるキャッシュ・フロー	△539,108	△492,003
現金及び現金同等物に係る換算差額	—	—
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△878,888	536,444
現金及び現金同等物の期首残高	3,331,869	2,325,581
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,452,980	2,862,026

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。